

先人の知恵から

26

かうんせりんぐるうむ かかし

河岸 由里子

今まで26回続けてきて、年4回だから6年半になるところで、力行がもう少しで終わる。先の長い話で、こんなに長くなってしまおうとは考えていなかった。計画が甘かったということだが、今後は、少しスピードアップを考えていくべきだろう。今まで書いてきたものと重なるような内容のものはとばして、サクサク進めて行こうと思う。今回は下記の八つ。

- 後悔先に立たず
- 剛毅朴訥ごうきぼくとつじん仁にに近し
- 巧言令色こうげんれいしよくすくな鮮しんし仁に
- 孝行のしたい時分に親は無し
- 好事門を出でず悪事千里を行く
- 浩然こうげんの気
- 江南の橘、江北に植えればからたち積つみとなる
- 郷に入りては郷に従う

〈後悔先に立たず〉

すんでしまったことを後でいくら悔やんでも、取り返しがつかないということ。だから、事前に十分注意せよという戒め。

この諺は誰もが知っていると思っていたが、最近使われることが少なくなったのか、子どもたちの間ではあまり知られていないようである。

子どもたちに限らず、最近では働いている大人たちに対し、失敗したとしても、それをいつまでも悔やんでいても仕方がないから、次はどの様に気をつけるかを考えようと伝える際に、この諺を使っている。事前にできることは何があったのか、検討すべき事、予測しておくべきことなどをあげていく。その際に気づくことは、見通しの甘さである。子どもであれば仕方がないが、30代40代の大人なのに、先の見通しが全

く立てられない人が増えていること。保護者では、子どもの先行きを不安がる割に、直ぐ先、目の前のことでも予測していないことがある。

将来こんなことにならないようにと、保護者はとても慎重になっていて、あの手この手で子どもたちの未来に間違いが無いようにと頑張っているが、では、今日前にいる我が子の困りごとに気が付いているかという、意外と気づいていない場合がある。

先日、ある父親が、3歳の子どもの自転車を買って来たとのこと。何インチを買ったのかと聞くと、子どもは直ぐ大きくなるからと18インチだという。3歳の子どもに18インチは大きすぎる。まだ三輪車で良い年齢。まあ、とっておいて、身体が大きくなったら乗れるだろうが、そのころまで綺麗な状態で保つのも大変だし、ずっと置いておける場所があるならよいが、無かったら邪魔以外の何物でもなくなる。結局父親は母親に言われてお店に返品し、三輪車に買い替えたそうだ。買い替えられたからよかったようなものの、それが出来なかったら、母親にずっと詰られる羽目になっただろう。買う前によく考えればよかったのにと誰もが思うが、当の本人は、「大は小を兼ねる」との論理だったようだ。

買い物ではこの手のことがよくある。量の測り方である。食料品を大量買いすると、賞味期限内に食べられないではないかと後で気づく。カップ麺を一日三個くらいは食べられるなど考えて、1ヶ月分100個買った人がいた。よく考えてみよう、カップ麺だけで暮らすならわかるが、そんな人はまずいないだろう。毎日毎日三度三度カップ

麺だけの生活は、いくら大好きでも飽きるだろうし、身体にも良くない。

こうした、物の場合は、何とでもなるかもしれないが、困るのは人である。

雇ってしまってから、或いは職についてしまってからこんなはずではなかったとか、入籍してから幻滅したり、子どもが生まれてしまってから、「産まなきゃよかった」と言ってみたり、こうした話は、毎日のように聞く。

あまり慎重になりすぎても就職や結婚、人雇が出来ない事にもなるが、ネットでやり取りして、二回あって妊娠して結婚というケースが増える中、もう少し慎重になっても良いのではと感じる今日この頃である。この諺をしっかりと伝えていきたい。

英語では・・・

A bird cries too late when it is taken.
(鳥は捕えられてから泣きわめいても遅すぎる。)

Things past be cannot recalled. (過ぎたことを悔やむことはできても、取り返すことはできない。)

<剛毅朴訥仁に近し>

意志が強くて物事に動ぜず、素朴で無口な人が理想的な人物であるということ。剛毅とは意志がしっかりしていて、困難にひるまない事。朴訥は飾り気がなくて口数が少ないこと。仁は人間の理想とする道徳観念。
出典 論語

人と接することが苦手な子どもたちが増えた。大人にも増えている。不登校や学校

不適應、入社拒否や職場不適應などの人たちと面談していると、どちらかという口数が少なく、大人しい人が多いと感じる。コミュニケーション能力が低いからと言われてしまえばそれまでかもしれないが、この人たちの良さが中々伝わらないことが嘆かわしい。

ペラペラと口が回る人は、中身がないことも多いが、周囲に対して友好的で明るい。でも口下手な人には、良く考えて物を言う癖があり、一つ一つに対して慎重だったり、真面目だったりする。そんな良い面に中々気付かず、本人たちは、どんどん引っ込み思案になり、自尊心も低く、ダメな人間だと思ってしまう。そんな人にこの諺を伝えている。古くから言われている諺は、説得力も高い。

人それぞれの良さを見る目を、周りの人たちも養えたら、こうした人たちが生きやすくなるのと思う。

<巧言令色鮮しに>

言葉を巧みに操り、人から気に入られようと愛想を良くしている者には、誠実な人間は少ない。人間としての最高の徳である仁の心が欠けているということ。巧言は巧みな言葉遣い。令色は他人に気にいるように顔色を取り繕うこと。仁は人間としての徳望。 出典 論語

この諺は前述の諺と類義である。こちらは口数の多い、口達者な人への戒めである。人にこびへつらったり、人を立てるのが上手で、上の人から重用される人には、裏で何を言ったり考えたりしているかわからな

い。こうした人にももちろん良さはある。権力者や将来伸びるだろうと思われる人を見抜く力はすごいかもしれない。しかし、信用できるかどうかとなると、中々厳しい。英語でも後述のような諺がある。世界共通で、しかも時代を超えて不変とは、人間は成長しないのかと思えてくる。

英語では・・・

Full of courtesy, full of craft. (礼儀たっぷりたくらみたっぴり。)

<孝行のしたい時分に親は無し>

親の苦勞がわかるような年頃になって、親孝行をしたいと思っても、もう親はこの世にいない。親が死んだ後で、生きているうちに孝行をしておくべきだったと悔やみ嘆くこと。また、親の存命中に孝行せよという教え。

最近親の方も長生きになってきたので、下手をすると、子どもの方が先に逝ってしまったりするが、それでもこの諺はまだまだ多くの人から同意を得られるものだと思う。

特に、自分さえよければという時代になってからは、親のすねをいつまでもかじっていて、80-50問題に発展したりするケースも増えた。子どもたちを早くから自立させる動きが少なくなったことにも由来するかもしれない。

中学を出たら就職する、丁稚に行くなどと言った時代ではないし、子どもを保護者が手放さなくなると、高校、大学、就職後も自宅からという人が増えている。親から

離れてみて初めて親の有難さがわかるものだと思う。幾つになっても、親にご飯を作ってもらい、洗濯をしてもらい、掃除してもらって、お小遣いやお年玉を貰っているようでは、親孝行とは程遠い。

敢えて子どもを外に出して、親から放し、自活できるようにさせる必要があるのかもしれないと思うのだが、それは余計なお世話なのか。

多くの親たちは、親孝行＝子が親を頼って甘えてくれること、であり、その結果として、いつまでも親離れ・子離れが出来ずにいる。それで良しとされているのであれば、こんな事を言っても無駄かもしれないが、子どもたちは親から離れていく力を持って欲しい。そして、この諺の様に子どもの方は、親孝行も出来ずにいたなと思うことがあっても、それが親にとって特に辛いことでも、悲しいことでもないし、親は、子どもが元気で暮らしてくれるのが一番の親孝行だと思っていることも伝えたい。

<好事門を出でず悪事千里を行く>

良いことの評判は、中々世に伝わらないものだが、悪いことの評判は、たちまち遠方まで広がるとのこと。

出典 ほくほう きげん 北夢瑣言

教職課程の授業を持っていて、先生方の不祥事の話をするところがある。先生の勇気ある行動や、子どもたちへの良い指導については、よほどのことがないと報道されないが、ちょっとした不祥事は、ネットも含め、あっという間に何度も報道され、今なら世界中に広がっていく。

人間である以上、粗があるし、失敗もする。誤りは訂正し、罪は償う。これは当たり前として、今はネット社会であることもしっかり意識しなければいけないだろう。5Gで広がっていく時代である。

人の悪いことばかりではなく、良いこと、素敵なこと、人だからこそその良い面などをもっともっと広げて欲しいものだが、いつの時代でもなかなかそうはならないのだなと思う。この諺も、はるか昔から言われているのだから。

英語では・・・

The good turns lie dead and one ill deed report abroad does spread. (十の善行は忘れられ、一の悪行は世に知れ渡る。)

<浩然の氣>

天地の間にみなぎっている、生命や活力の源となる氣。転じて、何物にも束縛されない豊かで伸び伸びとした心。浩然とは水が豊かに流れる様子。また心などが広くゆったりとしている様子。

出典 孟子

周りの目を気にし、空気化することを良しとする子どもたちを見ていると、とても窮屈そうで辛そうに感じている。学校では、猫型ロボットの量産の様に、均一化的教育が未だに行われている。そんな中でドラえもん的こどもは、はじかれ、いじめられ、疎外され、不適應を起こしている。

この様な現場を見ていると、この諺を思い出す。もっともっと豊かで伸び伸びした

教育は出来ないものか？フィンランドの様に、試験が少なく、年齢で学年が上がるわけでもなく、遊んで学び、子どもたちがやる気を出せる、しかも宿題が少なく授業日数も少ないなど、子どもたちが子どもらしくいられる時間が保障されている国もあるのだから、そういう国の真似をしていけばよいのと思う。保護者もお受験などに追いまくられず、子どもたちとゆっくりゆったりと過せる時間を持ってないものか？情報がいくら早く流れていても、陸上で100m走10秒を切ろうとも、子どもたちの時間はゆっくり流れて欲しいし、そして年老いた我々の時間ももう少しゆっくり流れて欲しいと思う。

筆者は15歳の時に茶道を始めた。初めてお稽古に行ったとき、お茶を点ている場、その時間の流れ、空間、匂い、音、それらすべてがとても心洗われるものだったのを今でも鮮烈に覚えている。東京の生活に疲れていたのかもしれない。そう思い返したとき、今の子どもたちは、もっともっと疲れているのがわかる。浩然の気のように、ゆったりと、ゆっくりとさせてあげたい。

<江南の橘、江北に植えれば枳となる>

人はその境遇によって性格が変わることのたとえ。江南・江北は揚子江の南岸と北岸。橘はコウジ（昔の人が食べたミカン）の古称。枳は生垣などにする落葉低木。とげが多く、春に白い花を開く。実は薬用。

出典 晏子春秋

枳（カラタチ）は唐橘が詰まったものという説もあり、ミカン科の植物。要は橘も枳も同種だが、ある場所では食物として重

宝がられ、ある場所ではその棘故に、忌み嫌われる。

人の性格は育った環境が大きく影響する。保護者の対応の仕方一つで、神経質になったり、おおらかになったり変わってくる。だからこそ、保護者の責任は重大。一人目の子はどうしても神経質に育ててしまいがちだが、出来るだけおおらかに、余り汲々せずに育てられるようにとこの諺を伝えている。

<郷に入りては郷に従う>

風俗や習慣はその土地によって違うから、人はすむ土地の風俗や習慣に従って生活するのが良いということ。また、ある集団に属したなら、その集団の規律に従うべきだということ。郷とは田舎・地方の意。

この諺は有名なので知っている人が多いと思う。前述の諺と似ている所があるかもしれない。その国、その地域、その学校、その会社、それぞれ文化があり規律があり、習慣がある。最初は戸惑うことも多いが、そのやり方に従わないと、物事がうまく進まず、自分自身が困ることになる。

子どもが小さいころ、アラビアのある国に住んでいた。そこでは、子どものほっぺたを引っ張る挨拶があった。我が家の子どもたちは最初その風習に触れ、泣いていたが、暮らしているうちにはそういうものだと理解し、慣れて行った。

インドなどでは左手は不浄の手。従って左手で子どもの頭などを撫でてはいけない。こうした風習を知らないで恥をかくだけではなく、大きな問題に発展してしまうこともある。

海外旅行も盛んな時代である。どこかほかの地域に行くときは、その風習などもしっかり勉強してから行けば、こういう問題は起こらないだろう。中国人が食べ方が汚いという記事を見ることがあったが、中国では骨などをテーブルに吐き出すことがレストランでのマナーである（最近は減ったが）。それはお皿の上に吐き出すのは、ごみを置くようなものだから汚いということである。また、食事を残すことも、食べきれないくらいたくさん美味しくいただいたという表現なのだ。その国について知らずに、批判するような愚かな行動は慎みたいものだ。

英語では・・・

Every country has its law. (どの国にもそれぞれの習わしがある。)

When you are at Rome, do as they do at Rome. (ローマにいる時は、ローマの人たちがするようにせよ。) Do at Rome as the Romans do. とも言う。

出典説明

論語・・・二十編

儒教の経典。「大学」「中庸」「孟子」と共に四書の一つ。孔子の言行や門人たちとの問答を記録した書で、講師の死後に門人たちが編集したものと言われる。孔子は諸国を回って仁の徳による政治を説いたが、本書は孔子の人物や思想を知るうえで極めて重要な資料である。

孟子・・・七編

中国、戦国時代中期の思想書。孟子の言行を門

人が編纂したもので、「大学」「中庸」「論語」と共に四書の一つ。性善説に基づく道徳論を説き、霸道（武力による政治）を否定して王道（人徳による政治）を提唱している。

北夢瑣言・・・二十卷

宋の時代に孫光憲によって作られた説話集。唐末・五代の世に知られない逸話を集めた書。光憲は夢沢ほうたくの北に住んでいたので北夢と称した。

晏子春秋・・・八編（内編六編、外編二編）

春秋時代の齊の宰相晏嬰せい さいしやうあんにんについての説話をまとめたもの。著者・成立年代共に不明であるが、戦国時代から漢代にかけて成立したとされる。晏嬰が使えた靈公・莊公・景公の三君をいさめ、治世に努力した言行が記されている。